



病院NEWS

no.
334
2012
04/01



The Hospital News.Faculty of Medicine Kagawa University



香川大学 医学部附属病院 香川県木田郡三木町池戸1750-1 発行人/病院長 千田 彰一

放射線治療の高精度化と均てん化



放射線治療部 教授
柴田 徹

平成24年1月より附属病院の放射線治療部長として赴任いたしました。

私は、昭和63年の京都大学卒で放射線治療医としての臨床経験は24年目となります。日本医学放射線学会専門医、日本放射線腫瘍学会認定医を有しています。前職は近畿大学の放射線腫瘍学部門にて准教授として教育、研究と臨床に携わってきました。専門領域は放射線腫瘍学全般ですが、特に強度変調放射線治療（IMRT）など最先端技術を得意としています。香川大学における放射線治療部の現状は、治療機器の更新が進んでおらず、他の多くの大学病院やがんセンター等において既に可能なIMRTが直ちに始められる状況にないことはとても残念です。今後、当院にて治療技術の高度化に対応可能な治療機器を導入し、効果的かつ安全性の高いがん治療を実現すること、各診療科と緊密に連携してチーム医療を推進することが私に課せられた使命と考えております。

現在、日本人の死亡の最大の原因はがんであり、がんの医療体制の充実が急務となっています。放射線治療の機器は日々進歩しており、最新の技術を用いれば有効かつ副作用の少ない治療が実現できます。これらは一部の先進的施設で積極的に行われていますが、全国的には未だ普及が進んでいません。地域による医療格差の是正（均てん化といいます）が強く望まれます。国の施策の基本理念である「がん対策基本法」においても「放射線治療の充実、専門的知識を持った人材の育成、最先端治療技術の普及」の必要性が取り上げられています。

放射線治療は手術療法や抗がん剤治療と並んで

がん治療の3本の柱を構成していますが、一般には未だなじみが薄いかも知れません。その主たる特徴は「がんを切らずに治す」ことであり、手術に並ぶ治療として期待されています。治療方法は、リニアックと呼ばれる照射装置を用いて腫瘍の部位にX線などを体外から集中的に照射し（外部照射）、がん細胞を破壊する治療です。疾患によっては病巣の近傍や内部から放射線を照射する小線源治療（いわゆる腔内照射や組織内照射）を加えることもあります。対象となる悪性腫瘍も多岐にわたり、肺がんや乳がん、頭頸部がん（喉頭や咽頭など）、食道がん、前立腺がん、子宮がん、脳腫瘍、悪性リンパ腫、肛門がんなどが挙げられます。治療効果が期待される反面、放射線は正常組織に照射された場合、副作用を引き起こします。放射線を許容限度の範囲内（耐容線量）で用いる場合には、治療の悪影響は一時的で回復可能ですが、耐容線量を超過して当てざるを得ない場合は重篤な有害反応が起こるリスクがあります。このことは従来型の放射線治療の限界を示しています。この弱点を解決できる治療技術が最近話題のIMRTです。コンピュータ技術を駆使して、正常組織を避けつつがんの病巣に集中的に照射可能であるため、その結果、治療効果が高く同時に正常組織の有害反応が低減できる画期的な治療です。例えば、頭頸部がんの場合の唾液腺や粘膜の機能低下のリスクを回避できます。また、前立腺がんでは直腸粘膜の後遺症で排便時出血が問題となりますが、IMRTではリスク軽減と同時に、病巣への線量増加が可能で治療成績の向上に繋がります。その他、脳腫瘍、食道がん、肺がん、骨盤部腫瘍、小児の腫瘍など将来的には適応範囲の拡大が期待されています。

今後、当院において放射線治療体制を整備し、一日も早く最先端のがん治療が提供できるよう全力で努めますので、何卒ご協力の程、宜しく願いいたします。また、がん放射線治療に関するご要望がございましたら何なりとお尋ね下さい。

医学部附属病院の基本理念などを一部改正しました

患者サービス課

平成23年12月14日開催の病院運営委員会で審議了承された基本理念などをお知らせします。

◆**基本理念** 患者さんの権利を尊重し、良質な医療を提供するとともに、医学の教育・研究を推進し医療の発展に寄与する。

◆**基本方針<目標>**

- 1.患者さんの人格と尊厳を重んじ、患者さん中心の良質・安全な医療を実践する。
- 2.厳しい倫理観と豊かな人間性を備え、高い能力を持つ医療人を育成し、生涯研修の場を提供する。
- 3.先進医療の開発につながる特色ある研究や、医薬品及び医療機器の臨床研究を推進する。
- 4.医療・福祉の向上のため、地域医療機関との連携を強め、各種支援事業を行うなど地域の中核的役割を果たす。
- 5.満足度の高い医療環境の整備に努め、効率よく、安定した病院経営を行う。

◆**患者さんの権利**

すべての患者さんは次の医療に関する権利をもち、当院は患者さんの権利を尊重した医療を行います。

- 1.安心して質の高い医療を受ける権利
- 2.医療従事者から納得のゆく説明を受ける権利
- 3.説明を受けた後に治療方針を選択する権利
- 4.セカンドオピニオン(他の医師の意見)を求める権利

- 5.プライバシーが守られる権利
- 6.診断治療を拒否する権利
- 7.臨床教育、臨床研究に参加、拒否する権利
- 8.当院の規則に基づき自分の診療に関する記録などの情報を得る権利

◆**患者さんに守っていただく事項**

患者さんと当院職員が互いに人格を尊重し、協力し合うことが最善の医療サービスの提供につながるものと考えます。患者さんは以下の事項をお守りください。

- 1.ご自分の心身の健康状態、その他必要な情報を担当者にお伝えください。
- 2.検査や治療などの医療行為について理解または同意できない場合は、その旨をお伝えください。
- 3.病状の変化や、治療中に生じた問題についてもお知らせください。
- 4.病院内では静粛を保ち、機器、備品は大切に取り扱ってください。
- 5.医療費はすみやかにお支払いください。
- 6.他の患者さんや職員に対する迷惑行為がある場合、警察に通報したり、退去していただいたりすることがありますので十分ご理解ください。
- 7.職員に対しての金品の贈与は、病院の方針としてお受けしないことによりしておりますのでご協力をお願いします。

がん患者サロン特別講演について

がん診療相談支援室

平成24年1月20日(金)午後2時からがん患者サロン特別講演を開催しました。NPO法人健康笑い塾の中井宏次塾長をお招きして、「笑いは百薬の長、笑って免疫力アップ」をテーマに講演していただきました。ユーモア溢れる塾長の講演は、テーマのとおり笑いは百薬の長であり、笑うことで幸せになり、笑うことで幸せを与えられることを教えていただきました。「心で笑えない人は脳で笑う。脳で笑えない人は顔で笑う。」という言葉をお聞きし、自分自身が笑うことの大切さ、自分の顔を鏡で見ること、自分の顔を好きになること、自分の顔を誉めてやること、心の底から笑うことの大切さを実感しました。中井先生のホームページに書かれているように、毎日を心豊かに快適に過ごすために「笑い」という副作用のない薬を参加者の心に予防接種していただきました。

今回の特別講演会の開催にあたり、多数の方々から、参加して有意義だったとのご意見をいただきました。今後のがん患者サロンの在り方、地域でのがん患者サロンの推進を考慮し、参加した方に「来て良かった」、「聞いて良かった。」、「同じ悩みを持つ方と情報を共有できた。」と思われるようながん患者サロンになるようにスタッフ一同、努力して参りたいと思います。



第2回知事と医学生の見意見交換会開催

地域医療教育支援センター長 大森 浩二

平成24年2月23日に浜田恵造香川県知事と医学科生の第2回目の意見交換会が開催されました。各学年から1～3名ずつ計10名の医学科生と、森医学部長、香川県庁の医務国保課の方々が同席し、司会は泉川特命助教が務めました。まず、森医学部長から歓迎の挨拶、大森から同センター活動報告があり、意見交換に移りました。知事は冒頭の挨拶の中で、香川県の地域医療対策として、医学科生に対する修学資金、寄附講座など香川大学と県との連携を重視していると述べられました。意見交換では、学生から香川県は気候風土が良好で、人が親切、コンパクト、星がきれい、うどんが旨いなどの良い点や、水事情、交通マナーが悪いなど改善すべき点が指摘されました。これに対して、知事は、他にも糖尿病受療率が全国トップなど、いくつかのワースト1があるので、24年度予算にワースト1脱却プロジェクトを提案するとの回答でした。特に、糖尿病関連では、小中学生の血液検査値の統計的分析や、食育などの取り組みが説明されました。地域医療については、学生からは在宅医療、かかりつけ医が重要との意見が出ました。住民満足には、教育と医療の充実が必要とする知事も認識は同様で、地域の病院を疲弊させている大病院指向、コンビニ受診はかかりつけ医制度がないことの裏返し、との見解を示されました。さらに、「うどん県、それだけじゃない香川県」、このそれだけじゃないところが大切、すなわち、他の産業、芸術、観光をアピールしたいとのことでした。香川の好感度が上がり、医学科生が卒業後も香川で活躍してくれること、それが、住民満足につながるというお考えのように思われました。最後に、うどんのバッチ(写真)を知事から一人一人手渡された学生達は大変嬉しそうでした。



「チーム香川」市民公開講座を開催しました

中核病院機能強化支援室長 松岡 寛夫

平成24年2月18日(土)丸亀町レッツホールにて「チーム香川」の市民公開講座『メタボ予防は生活習慣から』を開催致しました。当日は大変寒い日にも関わらず、満席となる程、本当に多くの方にご来場頂きました。初めに千田病院長から挨拶を行った後、「チーム香川」のメンバーである衛生学の宮武准教授による講演「メタボ予防は生活習慣から」、続いて岡山県南部健康づくりセンターの管理栄養士・国橋氏による講演「メタボ予防の食事」、最後に同センターの運動療法士・森下氏による講演「メタボ予防の運動」をそれ

ぞれ3人の掛け合いによって行いました。3人の息もぴったりで和気あいあいと賑やかに楽しく進行が行われました。ランチオンセミナーでは、県推奨の三ツ星ヘルシーランチ店の魚と田舎料理「おかげや」さん作のローカロリーで減塩のお弁当を出し、とても美味しいと満足そうでした。また、運動セミナーでは、森下氏の指導で、宮武先生がモデルとなり、参加者全員で身体を動かしました。皆さん楽しそうにいきいきとしていて、最後に会場が一体となった様はすごかったです。閉会後には、「面白かった」「どの講演もとても良かった、またやってもらえるの!？」など嬉しい感想を多く頂きました。「チーム香川」では今後もこのような活動を通し、広く市民・県民に啓蒙し、少しでも糖尿病対策につながるよう努力してまいります。



中国・四国地区で初めての新生児蘇生法普及事業の主催講習会

総合周産期母子医療センター
講師 日下 隆

日本周産期・新生児医学会では、「すべての分娩に新生児蘇生法を習得した医療スタッフが新生児の担当者として立ち会うことができる体制」の確立を目指し、2007年7月から新生児蘇生法(NCPR)普及事業を開始しています。この目的は、出生時に胎外呼吸循環が順調に移行できない新生児に対して、いかにして心肺蘇生法を行うべきかを学ぶ「NCPR講習会」の開催です。

香川大学総合周産期母子医療センターは、全国10か所にあるNCPR普及事業の四国で唯一のトレーニングサイトであり、その地区におけるNCPRの中心的な施設です。各地区のNCPR講習会の開催への協力、スキルアップのための活動なども行なわれます。

2012年3月10日(土)には11時から17時の間に、中国・四国地区で初めて主催講習会が開催され、新生児蘇生法のインストラクターの養成を目的に、「臨床知識編」「実技編」及び「指導編」で構成されたコースを行い、全国から受講者18名と教育スタッフ9名、事務スタッフ5名が参加しました。香川大学医学部からは、2名が受講者、3名が教育および1名が事務スタッフとして参加しました。

本講習会は、国際蘇生連絡委員会(ILCOR)による『2010 Consensus on Science with Treatment Recommendations (CoSTR)』を受けた、日本版救急蘇生ガイドラインに基づくもので、標準的な新生児蘇生法の理論と技術に習熟することにより、新生児の救命と重篤な障害の回避が期待されます。当院総合周産期母子医療センターは、今後の四国地区での新生児蘇生法普及の中心的役割が展開される予定です。



チェンマイ大学医学部5年生6名が研修しました

国際交流委員会委員長
徳田 雅明

平成24年1月23日～2月4日に、交流協定校であるチェンマイ大学医学部5年生6名が香川大学医学部・附属病院において研修を行いました。本事業は日本科学技術振興財団の留学生交流支援制度事業として実施されました。糖尿病など生活習慣病関連の実習や手術見学など幅広い臨床系の実習を行いました。今回日本で起きた震災や津波などによる災害時の危機管理や、実際の災害救援活動、さらには放射線についての基礎から臨床までの講義と、実際に実習も受けました。また伊方原子力発電所の見学も行いました。医学部の学生との交流も積極的に行い、友好を深めました。特に8月にチェンマイ大学で研修をした学生や、4月にチェンマイ大学に留学する医学科の学生たちはバディーとして良く世話をしてくれ、大変親しくなりました。次々にこうしたリンクができると、定着化してくると思います。想定した十分な活動ができたものとして、修了書を授与しました。



イベントカレンダー H24.4月～H24.6月 予定表

日時	時間	場所	名称及び内容	担当	担当
4/11 水	19:00～20:30	子どもと家族・こころの診療部	発達障害学校・医療連絡協議会	子どもと家族・こころの診療部	(087)891-2420
5/7 月	18:00～19:00	管理棟4階会議室1	緩和ケア学習会	腫瘍センター	(087)891-2054
5/9 水	19:00～20:30	子どもと家族・こころの診療部	発達障害学校・医療連絡協議会	子どもと家族・こころの診療部	(087)891-2420
5/18 金	14:00～16:00	患者図書室オリーブの郷	がん患者サロン	腫瘍センター	(087)891-2363
5/21 月	18:00～19:00	臨床講義棟1F	NST勉強会	腫瘍センター	(087)891-2054
5/26 土	16:00～19:00	ロイヤルパークホテル高松	四国肝不全研究会	消化器外科	(087)891-2438
5/26 土	13:00～16:00	サンポートホール高松	脳卒中市民シンポジウム	脳神経外科	(087)891-2207
6月	午後予定	サンポートホール高松	日本小児科学会香川地方会	小児科	(087)891-2171
6/9 土	未定	アルファあなぶきホール	第26回 日本神経救急学会	救命救急センター	(087)891-2392
6/13 水	19:00～20:30	子どもと家族・こころの診療部	発達障害学校・医療連絡協議会	子どもと家族・こころの診療部	(087)891-2420
6/30 土	午後予定	ロイヤルパークホテル高松	第50回 香川婦人科腫瘍研究会	周産期科女性診療科	(087)891-2174

外来駐車場は患者さまのもの!!
駐車ルールを守りましょう!!

編集委員会：乾(病棟)、梶川(検査)、加藤(放射線)、鬼村(患者サービス)、白神(麻酔)、林(総務)、芳地(薬剤)、舛形(外来)、松浦(管理)、松本(看護)、森本(看護)、横井(情報) 委員長 千田病院長
(50音順)

※この用紙は自然保護のため再生紙を使用しています。